

# 「農業委員と農地利用最適化推進委員を中心に『京力農場プラン』を推進」

京都府 与謝野町農業委員会

## 1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員：	14人
○ 農地利用最適化推進委員：	11人
○ 事務局職員：	3人
○ 市町村行政との連携状況：	常時 (町部局と兼務)



## 2 地区の特徴、状況、課題

- 与謝野町は、京都府北部の旧3町が合併した町で、大江山連峰から天橋立を望む阿蘇海まで流れる野田川流域に肥沃な農地が広がっている。山間部については遊休農地も見られるが、3社の農業法人をはじめとする多様な担い手がそれぞれの地域の農地を守っている。

## 3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 平成30年8月に新体制に移行。22人の委員が担当地区を受け持っている。
- 農家組織の単位ごとに担当地区を割り振っているが、話し合いの体制については地区ごとに温度差があるため、全委員が積極的に地区の話し合いに入っていくこととしている。
- 新体制1期目は、試行錯誤しながら体制づくりを進めてきており、担い手育成や耕作放棄地対策を中心に地区での話し合いに努めている。

## 4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

- 町内にある地区の約半数にあたる12地区が京力農場プラン（人・農地プラン）未策定であったため、令和2年度の重点目標として『全地区でのプラン策定』を掲げ、町農林課職員と農業委員会の委員が協力して各地区に入った。
- 残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響により年度内に策定できた地区は1地区に止まったが、全地区での説明は達成し、引き続き令和3年度中の全地区の策定を目指している。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください